

No.103

平成25(2013).12.1

新しくなった神戸市立東灘図書館のご紹介

神戸市立東灘図書館 館長 吉田 靖子

神戸市立東灘図書館（摂津本山が最寄駅）は、平成25年9月1日（日）－夏休み最終日－を最後に閉館し、9月23日（秋分の日）に新たにJR住吉駅を最寄り駅とした新館をオープンいたしました。昭和49年2月の開館以来約40年、本当に地域のみなさまに親しんでご利用いただきました。小さな入り口を入って2階・3階と上の階段の壁面には所狭しとポスターやチラシを掲示して、昭和のライブハウスを彷彿とさせる雰囲気を楽しんでいたいっていましたが、年数を経るとともにその雰囲気を作っている状況が物理的な制約となっていました。そして3週間の休館の後、JRの駅ひとつを引っ越しして、隣の住吉駅を最寄り駅として新館をオープンいたしました。延べ床面積1,485m²、蔵書は約10万冊。12:00開館予定を15分繰り上げ、12:10からは事故防止のために入場制限を開始させていただいだほど大勢の市民のみなさまがお越しくださいり、18:00閉館時には1万人を超えた。

新館では、これまでできなかった様々なサービスを実現しようとしています。図書はすべて1階に配置いたしました。書架も増えて蔵書を増やすことができるようになり、若い世代に向けて「ヤングアダルトコーナー」を、小学生には神戸市置塩子ども育成基金活用による「おきしお文庫～テーマは『国際理解』～」コーナーを新たに設置いたしました。利用者からのご希望の多かった「大活字本」も大幅に蔵書を増やしました。歩きやすいように段差をなくし、書架の通路も車いすでご利用いただける十分なスペースを確保いたしました。閲覧席・多目的室のある2階にはエレベーターをご利用いただけるようになりました。「多子高齢化」といわれる東灘区の利用者層のニーズに合わせて、広く新しいトイレには、女性用・男性用ともにおむつかえシートや子供用トイレを装備いたしました。乳児と一緒に心配なくご利用いただけるよう授乳室も設けました。赤ちゃんと一緒にご利用いただける「親子読書コーナー」、ガラスの窓で囲った「おはなしの部屋」な



どもご用意いたしました。若い世代のお父さんが子供さんを連れて来館され、トイレの世話をしながら読み聞かせをされている様子を見ると、「イクメン」がこんなに大勢いらっしゃるのだと驚かされます。閲覧席も1階・2階と可能な限りご用意いたしました。2階席は無線LAN優先席・データベース（ポプラディア）・閲覧専用席・持込み資料もご利用いただける席など幅広くご用意いたしましたが、それぞれの席数に限りがあり、新しい図書館にご期待いただいているご利用希望者数にお応えしきれていないのが現状です。図書館行事をはじめ学校との連携や地域との連携などで活用する2階多目的室は、そのようなご要望になるべく添えるよう、利用のない時は閲覧席に開放しています。

神戸市立図書館は、中央館を中心に各区ごとに設置されている地域館同士のネットワークにより市民にサービスを提供しています。市内図書館で初めてICタグ読み込みによる自動貸出機を導入いたしました。ICタグの読み込み状況などですんなり貸出処理が進まない場面もございますが、先陣を切った館として、スムーズなご利用に向けてご案内を続けています。「利用者の書斎」として、落ちついた居心地の良い図書館でありますと願っています。1階出入り口にハーブの香り、2階閲覧席には香りに加えて鳥の声や川のせせらぎの音などが流れる、気持ちの良い、集中しやすい空間を用意いたしました。常に外から入ってくる様々な情報や他者とのコミュニケーションから開放されて、書架を眺め、気になった本を手に取りながら自分自身と向き合う時間を持つことの大切さと充実感を、多くの利用者に味わっていただけるよう、きまつた席以外での電子機器や持込資料のご利用を控えていただく利用マナーの遵守をお願いしています。

まだまだ目指す落ちついた雰囲気ではありませんが、新しい図書館として多くの市民のみなさまにご期待いただいています。少しでも利用しやすい図書館でありますと、これからも取り組みを続けてまいります。

この半年を振り返って

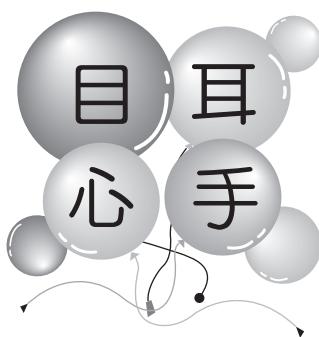
兵庫県立図書館

つぎた さ ち こ
次田早智子

今年の4月より、かねてからの念願がない兵庫県立図書館で勤務することになりました。3年間勤務した高校の事務室とは、業務の内容も頭の使い方も異なり、戸惑いながらも仕事を覚えようと必死になっているうちにこの半年はいつの間にか過ぎてしまったように感じます。

レファレンスカウンターでは日々力不足を実感しています。利用者の方からの問い合わせに、どうにか答えはするものの「もっといい回答があったのではないか」と不安になり、時折「ありがとうございます」の言葉を頂戴すれば、嬉しさよりも安堵の気持ちが先に出ます。情けなく、悔しい思いをすることも多々あります。

なにはともあれ、県に採用される時の面談で、「図書館で働きたいです！」と言ってから3年、希望していた職場です。何よりも利用者の方のために、一日でも早く立派な司書となることを目指して、他の職員の方々の助けを借りながら精進していきたいと思います。



素晴らしい仲間たち

三木市立吉川図書館

いとう まき
伊藤 真紀

早いもので、吉川図書館は今年の11月で開館4周年を迎えました。お陰様で、今でも利用は毎年増え続けており、24年度の貸出冊数は、前年度に比べ8%の伸びとなっています。そんな吉川図書館のパワーの源は、スタッフ一人一人の力です。どんなに不機嫌な朝であろうと、心からの笑顔でいさつをし、利用者の求めに誠実に応えようと積極的に関わっていく、そんな素晴らしい仲間たちがこの図書館を支えています。

4年前、吉川担当として先頭を切って張り切っていた私も、近ごろは少々息切れ気味…（年のせい?!）。

それをカバーするかのように、今ではスタッフ全員が利用者の視点に立ちながら自発的にアイデアを出し合い、日々の業務に生かしています。また、行事の企画も積極的に提案・実行し、この夏は「調べ学習講座」や「ぬいぐるみのおとまり会」などを市内の全図書館と連携しながら開催しました。

「司書」としての経験はまだまだ浅い私たちですが、「利用者から学ぶ」姿勢を忘れず、日々の小さな積み重ねを大切にしながら、より多くの方に利用していただける図書館を、力を合わせて作っていきたいと思います。

レファレンスは難しい

加古川海洋文化センター 図書室
よつくら か なえ
四倉加奈恵

図書室で働き始めて5年目になりました。図書室とありますように、規模が小さいので何事もスタッフ一丸となって取り組んでいます。

先日、利用者から漢文に関して調べて欲しいと依頼を受けました。質問された方も曖昧な状態でこちらに尋ねられた様子でした。頭の中で？マークが飛び交うのを感じながら、私は根気強く耳を傾けました。周りのスタッフに助けてもらしながら、何とか全訳されたものを探し当てて乗り切ることができたのですが、聞き取りが不充分だったと反省しました。レファレンスでは利用者からいかにして情報を聞き出せるかが鍵になってくると思います。そして別の切り口からの調査、

利用者の思い違いの可能性を考えるなど発想を柔軟にすることが必要です。またネットで調べた方がよりスムーズに答えに辿り着きますが、本から得た情報が新たな考え方や興味をもたらすということを忘れないようにしたいです。気軽に相談してもらえるよう雰囲気づくりを大切にしていきたいと思います。

図書館の魅力

さかもと はるよ
坂本 温代

私の働く淡路島の三原図書館は、淡路人形浄瑠璃資料館を併設している為、図書館の利用者の他に島外からの観光客の方が来館する事も多いところです。また、公民館とつながった瓦を葺いた建物で、平野部の田畠が広がる中にあります。そんなのんびりとした環境の図書館に、私はこの4月から配属されました。以前から図書館へ異動の希望を出していたものの、職員枠も少なく司書資格も持っておらず、無理だうと半ば諦めていたので、叶った時は本当に嬉しく思いました。勤め始めた当初、開館前のまだ誰もいない静かな時間に、本がぎっしりつまつた背の高い書架のなかで本を整理した幸せな感覚は、一生忘れないと思います。そしてこの約半年間は、

図書館の維持管理の仕事と、図書サービスの仕事を日々覚えながら、失敗をしながら過ごして来ました。

昔から図書館が好きで、旅先でも図書館があれば入って、本や建物を眺めていました。家や書店で本を読むのとは違う、図書館の持つ独特の空間に惹かれていたのだと思います。図書館員として働く間に、そんな魅力を伝えることが出来たらと思います。



兵庫ゆかりのコレクション紹介
宝塚市立中央図書館
「聖光文庫 宝塚歌劇関係資料コーナー」

宝塚市立中央図書館特別閲覧室「聖光文庫」は、主に美術関係の図書・資料を所蔵している「閲覧コーナー」と、美術作品等の「展示コーナー」に分かれています。閲覧コーナーの一角には、宝塚歌劇関係資料コーナーを設けており、宝塚歌劇ファンはもとより、広く市民の皆様の興味に応えています。

同コーナーには、創刊号（大正7年）から大正年間の雑誌「歌劇」や、『宝塚歌劇四十年史』『たからづか乙女の映画』『A HISTORY OF THE TAKARAZUKA REVUE SINCE 1914』（アメリカで刊行された宝塚歌劇の歴史書籍）など貴重な図書・資料を保存しており、調査研究のために来館される方に広く活用されています。



また、展示コーナーでは当館市史資料室が収集した宝塚歌劇をはじめ宝塚旧温泉、宝塚新温泉など市域の歴史に関わる興味深い資料を年2回展示し、宝塚の歴史を探求する人々から大変喜ばれています。

平成26（2014）年度は宝塚歌劇100周年、市制60周年、手塚治虫記念館開館20周年を迎える記念すべき年となります。中央図書館「聖光文庫」展示コーナーでは、宝塚歌劇関連展示などを行う予定です。

なお「聖光文庫」の美術関係図書は、全て当市内にある清荒神清澄寺鉄斎美術館の入館料によって購入されたものです。そうした関係で、昨年から鉄斎美術館と中央図書館共催の「文化講座」も実施し、12月8日（日）には第2回目の講座を開催します。

（宝塚市立中央図書館　近藤泰典）

助成事業の報告

テーマ：巡回展示文庫「図書館を活用した防災学習」

開催日：平成25(2013)年7月27日(土)～9月18日(水)

会場：兵庫県立図書館

講師：加藤茂弘氏（県立人と自然の博物館主任研究員）

川東丈純氏（ビブリオ堂珍元齋・県立図書館広報委員長）

近年、公共図書館の役割が多様化し大きく変貌してきている中、県立図書館では、未来型図書館の取り組みのひとつとして、県立人と自然の博物館と連携し、夏休みの自由研究を応援する体験型防災学習企画を行ないました。ともに大地震を起こす俗信がある日本のナマズと台湾のウシの合体キャラクター「ナマズウシ」を先生役に「見る」「やる」「調べる」をキーワードにした防災関連のそれぞれの館の所蔵資料等を活用した企画展示と連携館の研究員や当館職員によるワークショップを実施し、企画展示には16,901名、ワークショップも親子中心に45名と好評を博しました。企画展示は、山崎断層帯暮坂峠断層のはぎとり標本や鯰絵等江戸時代のかわら版の実物展示と関連書籍をナマズウシ先生イラストによる案内コメントやクイズでわかりやすく紹介しました。ワークショップでは、活断層が連動して地震が伝わる様子をドミノで再現したり、参加者がナマズウシ講談を聞いて、ナマズウシを切り抜き色を塗って立体的にした江戸時代のジオラマ「立版古」を作ったり親子で楽しく学べる仕掛けにしました。また、地震に関する書籍も並べたので本を借りて帰る親子連れもおられ、モノ・コトから本に繋げることがうまく連動できたと思います。

この防災学習展示は、県内各地域の防災・減災意識の高揚のため市町立図書館に展示巡回文庫として貸出しし、山崎断層による地震や南海トラフによる津波等各地域の課題に対応した体験型展示として展開していきます。来年1月には宍粟市立図書館、8月には南あわじ市南淡図書館での巡回展示が決まりましたのでぜひご覧いただければ幸いです。今後も、県立図書館は視点を変えたさまざまな取り組みのモデルケースを提案しつづけていきたいと考えています。

（兵庫県立図書館　川東丈純）



兵庫県内図書館の動き(平成25(2013)年)

兵庫県立図書館

- ・公衆無線LANサービスの開始 (4月)
- ・個人貸出冊数の試験的変更 7冊→10冊 (7月)

神戸市立中央図書館

- ・『神戸又新日報』デジタル化資料の館内閲覧開始 (6月)
- ・耐震化工事開始 (12/2~3/10)
- 東灘 指定管理者制度の開始 (4月)
移転新築開館 (9月)
- 兵庫 指定管理者の更新 (4月)
- 北・北神分館 指定管理者の更新 (4月)
- 新長田 指定管理者の変更 (4月)

西宮市立中央図書館

- ・「西宮市子ども読書活動推進計画」改定 (7月)

芦屋市立図書館

- ・図書館駐車場の24時間利用が可能 (1月)
- ・図書館システム更新 (1月)

伊丹市立図書館

- ・『伊丹公論』73年ぶりに復刊 (7月)
- 北分館 指定管理者の更新 (4月)

川西市立中央図書館

- ・図書館システム更新 (3月)
- ・まちづくり情報コーナーの設置 (5月)
- ・デイジー図書の初の自館作成品が完成 (8月)

宝塚市立図書館

- ・開館時間の変更 (金曜日 19時閉館に) (4月)
〔中央図書館は館内整理日である第2金曜日を除く〕
- ・「宝塚市子どもの読書活動推進計画(第2期)」策定 (4月)

三田市立図書館

- ・来年4月からの指定管理者制度導入を発表 (9月)

明石市立図書館

- ・移転先の明石駅前南地区再開発ビル施設配置案決定 (4月)

西脇市図書館

- ・2015年移転先の「西が丘複合施設」完成予想図発表 (7月)
- ・多可町図書館との相互返却サービスの開始 (7月)

三木市立図書館

- ・2015年7月移転開館へ向け設計業者決定 (5月)

小野市立図書館

- ・洋書絵本のコーナー設置 (7月)

加西市立図書館 10周年 (2003年3月開館)

- ・記念フォーラム(永田崩氏) (2月)
- ・WEBサイトリニューアル (7月)

稻美町立図書館

- ・セルフ書籍消毒器(ブックシャワー)の設置 (9月)

加東市立中央図書館

- ・20周年(1993年7月開館)
- ・トイレにベビーシート、ベビーチェア設置 (9月)

- 滝野 保健センターとコラボし、移動図書館開設 (10/20、12/7)

秋のフェスティバルにあわせ臨時開館 (11/3)

- 東条 加東出身の詩人・坂本遼遺族が直筆原稿など120点を市に寄託、図書館で管理 (1月)

多可町図書館

- ・西脇市図書館との相互返却サービスの開始 (7月)

姫路市立城内図書館

- ・市政出前講座の開始 (7月)
- 安室分館 大規模改修工事のため休館 (9/23~11/5)
- 家島分館 家島分館を併設した姫路市立家島事務所竣工 (2月)

赤穂市立図書館

- ・電子図書館サービスの開始 (10月)

福崎町立図書館

- ・「福崎町子どもの読書活動推進計画」策定 (3月)

豊岡市立図書館

- ・本館にセルフ書籍消毒器(ブックシャワー)の試験的設置 (8月~10月)
- 城崎分館 志賀直哉ゆかりの本コーナー設置 (2月)

朝来市立図書館

- ・個人貸出冊数を無制限に変更 (4月)
- ・ブックスタート開始 (10月)
- ・和田山図書館空調機器更新及び照明LED化工事のため休館 (10/1~10/17)

丹波市立図書館

- ・「図書館ブログ」の開始 (4月)
- ・子ども司書養成講座開講 (6月)

篠山市立中央図書館 10周年 (2003年4月開館)

- ・開館10周年記念特別企画(河合雅雄氏講演会) (3月)
- ・インターネットを使った動画ニュース配信サービスの開始 (4月)
- ・デイジー図書の導入 (6月)
- ・タブレット端末による地域資料の閲覧 (6月)
- 市民センター図書コーナー 職員駐在時間の延長(平日のみ1時間延長) (8月)

淡路市立津名図書館

- ・地震による落下資料片付けのため臨時休館 (4/13~4/14)

兵庫県図書館協会会報 No.103

平成25(2013)年12月1日 発行

編集・発行:兵庫県図書館協会

〒673-8533 明石市明石公園1-27

兵庫県立図書館内

Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500

E-mail:hyoto_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp